

炭素を減らして地球温暖化対策

人間科学部コミュニケーション学科4年 宇佐美歩渚
カナダ・ランガラカレッジ

1. このテーマを選んだ理由

私が今回の留学で選んだ SDGs のテーマは「炭素を減らして地球温暖化対策」だ。このテーマを選んだ理由は、現在、地球温暖化による影響で気候変動による被害が深刻であることを知り、一刻も早く具体的な対策をとらないといけないと感じたためだ。今回は SDGs13 番の「気候変動に具体的な対策を」をベースに、カナダ・バンクーバーの地球温暖化対策として行っている取り組みについて街を観察することやホストファミリーにインタビューするなどして調査した。

2. 調査

まず、街を観察して分かったことは、分別式のゴミ箱が街の至る所に設置されていたことだ。日本にも分別式のゴミ箱はあるが、スーパーマーケットや大学など場所は限られている。カナダのゴミ箱はゴミ箱の上に捨てて良いもの、ダメなもののイラストが詳しく描かれていて、誰でも簡単に分別ができるような仕組みになっていた。ホームステイ先の家族も、家に分別ボックスを設置して分別を行っており、カナダ国民誰もが分別にきちんと取り組んでいるのだと感じた。また、公共交通機関の利用をする人がとても多いことが分かった。カナダはコンパスカードという日本でいう Suica のようなものに 1 か月料金をチャージすれば、ゾーン内では乗り放題という仕組みに加え、運航本数も多かったのも、それが利用者数の多い理由だと考えた。ホストファミリーに、実際にカナダに住んでいる方々が気候変動についてどのような意識を持っているかについて知るためにインタビューしたところ、「気候変動についてとても心配する気持ちと恐怖を感じる」や、「ゴミの分別やリサイクル、ガソリン車をあまり使わないようにするなど地球温暖化対策の取り組みをすることは、子供たちなど、未来世代のためを思うとやって良かった」というように話していた。カナダはホストファミリーのように国民一人一人が地球環境に関心をもって実際に行動していると感じた。

3. 見解・考察

今回の調査により、国民一人一人が地球環境に関心を持ち、地球温暖化対策としてゴミの分別や公共交通機関の利用などを積極的に行っていることが分かった。“国民一人一人が行動している”というところがポイントだが、その秘訣は「分別ボックスの多数設置」や「バス

の運行本数の多さ・ゾーン内乗り放題制度」など、制度や環境が整っているところだと考える。結果として、誰でも気軽に簡単に地球温暖化対策ができる。

4. 茨城県で実現可能な SDGs の取り組み

カナダで行われていた SDGs の取り組みを参考に、茨城県で実現可能な取り組みを考えると、ゴミの分別ボックスの設置数を増やすことや、バスに関しては Suica のようなカードに 1 か月料金チャージしてゾーン内乗り放題という制度をつくること、運航本数を増やすということは茨城県でも努力次第では実現不可能ではないので、それらを推奨したい。ゴミの分別ボックスの設置数を増やすことは、クラウドファンディングなどで資金を集めることを提案する。今回のホストファミリーへのインタビューで分かったように、地球環境や未来世代のためになることであれば協力してくれる人も多いと考えるからだ。資金を調達して、現在分別式ではないゴミ箱も分別式に変えたり、身近な場所にまで設置していけるのが理想だ。バスの運行本数を増やすためには、乗務員の数を確保しなければならないが、バス乗務員の給料を見直したり、仕事のプロモーションを今よりも行い、乗務員の仕事に興味をもらうことが大切だと考える。制度や環境から整えていき、県民一人一人が地球環境に関心を持ち、地球温暖化対策の取り組みをしていけることを目指していきたい。